

## 75年を祝して（その1、海陽町）



美波病院 本 田 壮 一

海部郡医師会は、1947（昭和22）年12月に社団法人となった。1997年に50周年を迎え、記念誌を出版した<sup>1)</sup>。本医師会<sup>2)</sup>は、会員23人の県内最小の郡市医師会である。今年2022年は、75年の節目となり記念文集を計画していたが、遷延するCOVID-19流行のため断念した。一次救急や、在宅医療介護連携推進事業に加え、COVID-19の発熱外来や、ワクチン集団接種などで活躍されている会員諸先生の現況を紹介する。今号では、まず海陽町やその医療機関の現状を示す。

平成の市町村合併で、旧の海南・海部・穴喰の3町が合併し、海陽町が誕生した（人口8,790人、2021年12月）。徳島県の最南端に位置し、室戸阿南海岸国定公園の海岸に面し、西側は高知県と隣接する。穴喰には国指定天然記念物の「化石漣痕（さざなみの化石）」（図1）があり、徳島県立博物館にもレプリカがある。清流の海部川が流れ、アユ釣りが盛ん。毎年2月の海部川風流マラソン（おもてなしがよく、全国ランキング1位の人気。残念ながら、2年連続オンライン開催）や、サーフィンの砂浜もあり、阿波尾鶏やキュウリ・バラ

が生産されている。2021年12月には、5年前からの待望の世界初の道路と線路を走るDMV (dual mode vehicle) という両用列車の営業が開始された（阿佐海岸鉄道）。コロナ禍を越え、持続可能な公共交通となってほしいと思う。

海陽町の医療機関を、写真（2021年2月に撮影）とともに紹介する。海陽町の四方原<sup>しほうはら</sup>には、海陽町立海南病院<sup>3)</sup>（45床）（図2）と寿満内科クリニックがある。私も1994年から約2年、大里<sup>おおざと</sup>にあった旧病院に勤務したことがある。「人とのつながり、寄り添う医療」を、常勤医師2名（神澤賢院長ら）で続けている。寿満内科クリニック（図3b）は、県立海部病院に勤務されていた壽満裕司先生。大里には、郡医師会長の松田啓次先生が経営する大里医院（図3c）。1996年に大塚耳鼻咽喉科を継ぎ、2007年に移転し、内科・耳鼻咽喉科・放射線科を標ぼうされている。いしもとファミリークリニック（図3a）は、石本浩一先生。県立海部病院にも勤務され、小児科だけでなく、内科・アレルギー科など、「地域のホームドクターをめざして」診療されている。大里医院の隣に調剤薬



図1：化石漣痕



図2：海南病院

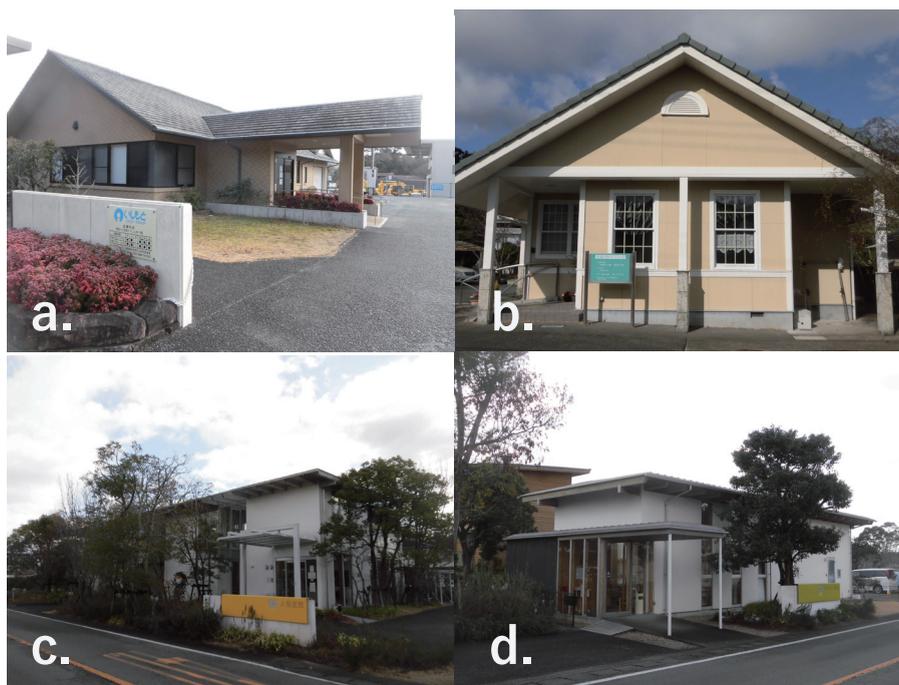


図3：a.いしもとファミリークリニック、b.寿満内科クリニック、c.大里医院、d.大里薬局

局（図3d）があり、その近藤康正さんが郡医師会の事務局を務められている。いつもありがとうございます。旧海南町の川上地区や旧海部町（鞆浦、奥浦）には医療施設がなく、旧穴喰町（穴喰浦松原）に二つある。前郡医師会長の折野眞哉先生の折野胃腸科内科（図4a）は、診療所だけでなく高齢者施設を経営されている。国民健康保険

診療施設の穴喰診療所（図4b）は、白川光雄先生。船津・久尾地区などへの巡回診療も行っている。

海陽町の医療機関は、県境を越えるが生活圏として交流が深い高知県東洋町の患者さんも診察している。救急や入院診療には、海南病院や県立海部病院（牟岐町）への期待が大きい（広報担当委員）。



図4：a.折野医院、b.穴喰診療所

【参考】

1) 居和城武、北川健博、他：海部郡医師会五十年史、1999（平成11）年

2) 海部郡医師会 ⇒<https://kaifu-med.or.jp/>

3) 海陽町立海南病院 ⇒<https://kainanhp.jp/>